



Red Hat OpenStack Platform 13

Service Telemetry Framework リリースノート 1.5

Service Telemetry Framework 1.5 のリリースについて

Red Hat OpenStack Platform 13 Service Telemetry Framework リリース ノート 1.5

Service Telemetry Framework 1.5 のリリースについて

OpenStack Documentation Team
Red Hat Customer Content Services
rhos-docs@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、Service Telemetry Framework の本リリースにおける主な機能、機能拡張、および既知の問題を概説します。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
第1章 SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK リリースの概要	4
1.1. 製品サポート	4
第2章 SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK のリリース情報	5
2.1. SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK 1.5.0	5
2.2. SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK 1.5.1	5
2.3. ドキュメントの変更	6

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

第1章 SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK リリースの概要

本リリースでは、Service Telemetry Framework (STF) に新機能を追加し、STF に特有の問題を解決しました。

STF は他の Red Hat 製品のコンポーネントを使用しています。これらのコンポーネントのサポートに関する具体的な情報は、<https://access.redhat.com/site/support/policy/updates/openstack/platform/> および <https://access.redhat.com/support/policy/updates/openshift/> を参照してください。

STF 1.5 は、デプロイメントプラットフォームとして OpenShift Container Platform バージョン 4.10 および 4.12 と互換性があります。

1.1. 製品サポート

Red Hat カスタマーポータルでは、Service Telemetry Framework のインストールと設定をガイドするリソースを提供しています。カスタマーポータルでは、以下の種類のドキュメントをご利用いただけます。

- 製品ドキュメント
- ナレッジベースのアーティクルおよびソリューション
- テクニカルブリーフ
- サポートケース管理
カスタマーポータルには <https://access.redhat.com/> からアクセスしてください。

第2章 SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK のリリース情報

この Service Telemetry Framework (STF) リリースのサポート期間中にリリースされた更新に関する注意事項は、各更新に関連するアドバイザリーテキストに記載されています。

2.1. SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK 1.5.0

このリリースノートでは、Service Telemetry Framework (STF) の本リリースをインストールする際に考慮すべき拡張機能および削除された機能を説明しています。

本リリースには、以下のアドバイザリーが含まれています。

[RHEA-2022:8735-01](#)

Service Telemetry Framework 1.5.0 - コンテナイメージ用のコンポーネントのリリース

2.1.1. リリースノート

このセクションでは、推奨事項や STF の重要な変更点など、リリースに関する重要な情報をまとめています。お使いのシステムに最大限の効果をもたらすために、以下の情報を考慮する必要があります。

[BZ#2121457](#)

STF 1.5.0 は OpenShift Container Platform 4.10 をサポートします。これまでの STF のリリースは、延長サポートの終了が近づいている OpenShift Container Platform 4.8 に限定されていました。OpenShift Container Platform 4.10 は、2022 年 11 月までのフルサポートと 2023 年 9 月までのメンテナンスサポートを備えた延長更新サポート (EUS) リリースです。詳細は、[Red Hat OpenShift Container Platform ライフサイクルポリシー](#) を参照してください。

2.1.2. 非推奨の機能

本項には、サポートされなくなった機能、または今後のリリースでサポートされなくなる予定の機能について記載します。

[BZ#2153825](#)

sg-core アプリケーションプラグイン **elasticsearch** は、STF 1.5 で非推奨になりました。

[BZ#2152901](#)

prometheus-webhook-snmp の使用は、STF 1.5 で非推奨になりました。

2.1.3. 削除された機能

[BZ#2150029](#)

STF と Gnocchi を一緒に使用方法を説明する STF ドキュメントのセクションが削除されました。Gnocchi の使用は、自動スケーリングでの使用に限定されています。

2.2. SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK 1.5.1

このリリースノートでは、Service Telemetry Framework (STF) の本リリースをインストールする際に考慮すべき拡張機能および削除された機能を説明しています。

本リリースには、以下のアドバイザリーが含まれています。

[RHSA-2023:1529-04](#)

Service Telemetry Framework 1.5.1 - コンテナイメージ用のコンポーネントのリリース

2.2.1. リリースノート

このセクションでは、推奨事項や STF の重要な変更点など、リリースに関する重要な情報をまとめています。お使いのシステムに最大限の効果をもたらすために、以下の情報を考慮する必要があります。

BZ#2176537

STF 1.5.1 は OpenShift Container Platform 4.10 および 4.12 をサポートします。これまでの STF のリリースは、延長サポートの終了が近づいている OpenShift Container Platform 4.8 に限定されていました。OpenShift Container Platform 4.12 は、現在完全にサポートされている Extended Update Support (EUS) リリースです。2024 年 7 月までメンテナンスサポートが提供されます。詳細は、[Red Hat OpenShift Container Platform ライフサイクルポリシー](#) を参照してください。

BZ#2173856

イベントストレージが無効になっていると、Grafana のイベントデータソースが使用できないという問題があります。イベントストレージのデフォルト設定は無効になっています。データソースはアノテーションを使用しており、デフォルトでは使用できないため、仮想マシンダッシュボードには、欠落しているデータソースに関する警告が表示されます。回避策 (ある場合): 仮想マシンダッシュボードで使用可能なスイッチを使用して、アノテーションを無効にし、STF の既定のデプロイメントオプションと一致させることができます。

2.2.2. 機能拡張

本リリースの STF では、以下の点が強化されています。

BZ#2092544

CA の追加の証明書有効期限設定と、QDR および Elasticsearch のエンドポイント証明書を使用して、証明書の更新設定をより詳細に制御できます。

STF-559

STF の追加の SNMP トラップ配信制御を使用して、トラップ配信ターゲット、ポート、コミュニティ、デフォルトトラップ OID、デフォルトトラップ重大度、およびトラップ OID 接頭辞を設定できるようになりました。

BZ#2159464

この機能は go-lang 1.18 で再構築され、サポートされている go-lang バージョンにとどまり、将来のメンテナンスアクティビティに役立ちます。

2.3. ドキュメントの変更

このセクションでは、Service Telemetry Framework (STF) 1.5 で提供される主要なドキュメントの更新と、新機能の追加、機能拡張、修正など、ドキュメントセットに加えられた変更の詳細を記載しています。このセクションでは、新しいタイトルの追加と、リタイアまたは置き換えられたタイトルの廃止についても詳しく説明しています。

表2.1 ドキュメントの変更

Date	影響を受けるバージョン	影響を受けるコンテンツ	変更の説明

Date	影響を受けるバージョン	影響を受けるコンテンツ	変更の説明
2022年12月1日	1.5		STF での Gnocchi の使用に関するセクションを STF ドキュメントから削除しました。自動スケールリングには Gnocchi のみを使用できます。
2023年3月30日	1.5.1		「非標準ネットワークポロジーへのデプロイメント」というタイトルの STF ドキュメントからセクションを削除しました。推奨事項は不要で、不正確である可能性があります。
2023年3月30日	1.5.1	https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_opensstack_platform/17.0/html-single/service_telemetry_framework_1.5/index#configuration-parameters-for-snmptaps_assembly-advanced-features	STF 1.5.1 で使用可能な追加の設定パラメーターが、「SNMP トラップとしてアラートを送信」セクションに追加されました。Prometheus Alerts からの SNMP トラップ配信用に ServiceTelemetry オブジェクトを設定するための詳細情報と例が記載されています。
2023年3月30日	1.5.1	https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_opensstack_platform/17.0/html-single/service_telemetry_framework_1.5/index#proc-updating-the-amq-interconnect-ca-certificate_assembly-renewing-the-amq-interconnect-certificate	tripleo-ansible-inventory.yaml パスが更新され、RHOSP 13 および 16.2 デプロイメントの正しいパスに一致するようになりました。